# 中学生の ICT 利活用Ⅰ　スマートフォン編

## ―モバイル利用のライフスタイル研究―

○近藤 勢津子, 水野 一成（ＮＴＴドコモ モバイル社会研究所）, 飽戸 弘（東京大学名誉教授）

キーワード：ライフスタイル，中学生，ICT

### １．研究背景と目的

NTT ドコモ モバイル社会研究所が 2018 年から毎年実施している調査では、中学生のスマートフォン（以下スマホ）の所有率は 2019 年以降 8 割程度、また利用率は 9 割程度と大きな変化は見られない[1]。GIGA スクール構想が本格始動している現在において、中学生の子でスマホを持たせる親の特性を明らかにし、親が子に安心・安全に ICT 機器を利活用する分析の基礎としたい。

### ２．調査概要

調査時期：2022 年 11 月　調査方法：訪問留置法

対象：関東 1 都 6 県　中学生とその親

標本抽出方法：QUOTA　SAMPLING

性・子の年齢・都市規模で割付　サンプル数：201

### ３．分析方法

スマホ未所有(1 群：25%)、所有低利用(2 群：42%）、所有高利用(3 群：33%)の 3 群を目的変数とし、数量化理論第Ⅱ類で分析を行う。なお、低利用と高利用は利用時間の分布により、1 時間を閾値とした。また、説明変数は親の属性、子の ICT 機器の利用に対する考え方、親の ICT 利活用状況など 9 項目とした。

### ４．分析結果

1 軸は判別グラフ及び各群の平均点より 3 群(高利用)が負の方向、2 群（低利用）及び 1 群（未所有）が正の方向に傾いた為、「スマホを所有し、比較的長時間利用する子」の親の特性を明らかにする軸とする。なお、判別的中率は 87.6%、相関比 $\eta^2$ は 0.23、寄与率は 63.1%である。図 1 は偏相関係数の高い順にカテゴリースコアを示したものである。カテゴリースコアより高利用者の親の特性は、「子が ICT を利用することに期待すること」が「コミュニケーション力」に傾注し、「親のネット利用時間」が長く、「子がパソコンを使うことへの考え」は「中間（極端に遊びや学習傾向ではない）」であることが判明した。また 2 軸は判別グラフ及び各群の平均点より 1 群（未所有）と 2 群（低利用）を分ける軸であり、相関比 $\eta^2$ は 0.14、寄与率は 36.9%である。カテゴリースコアより未所有の親の特性は「親のネット利用時間」が極端に長いか短く、「子がパソコンを使うことへの考え」は勉強と考え、「子が ICT 利用をすることで親が心配すること」は多方面であった。なお「子が ICT 利用をすることで親が心配すること」は、9 つの質問項目から因子分析を行い「健康」「情報」「料金」を抽出し、その後クラスタ分析を行った結果、4 クラスタ（多方面、情報、健康、少ない）に分けたものを変数として採用した。

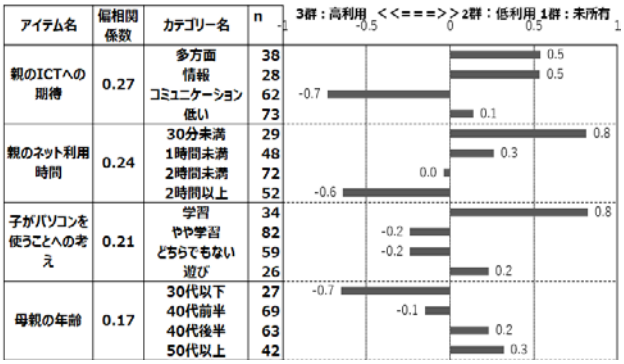


図 1 :1 軸カテゴリースコア（偏相関係数上位）

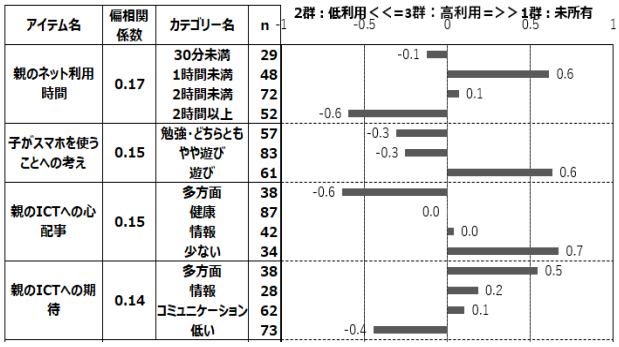


図 2:2 軸カテゴリースコア（偏相関係数上位）

### ５．考察

今回の分析によって、スマホ所有有無・利用多寡には、「親のネット利用時間」に合わせ、「子が ICT を利用する親の考え（期待・不安）」特に「パソコンに対する考え」の影響が強いことが示唆された。「中学生のパソコンの利用時間」を軸に分析した結果は、次の「中学生の ICT 利活用Ⅱ パソコン・タブレット編」で報告する。

### 参考文献

[1]NTT ドコモ　モバイル社会研究所
https://www.moba-ken.jp/project/children/kodomo20230216.html
(2023 年 3 月 26 日)